

# 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

守山市教育委員会

## 1 調査概要

### (1) 目的（実施要項より）

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 対象 小学校第6学年、中学校第3学年

### (3) 内容

#### ①「教科に関する調査」

- 主として「知識」に関する問題 [国語、算数・数学、英語（中3のみ）]  
調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、以下のとおり。
  - ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等にかかわる内容

#### ②「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」

- 児童生徒に対する調査
  - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- 学校に対する調査
  - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件整備の状況等に関する調査

### (4) 調査日 令和5年4月18日（火）

## 2 調査結果から市全体の概要

### (1) 学力調査

#### 【小学校】

国語科：県平均、全国平均を上回る正答率

算数科：県平均を上回り、全国平均程度の正答率

#### 【小学校国語課題】

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られました。

### 【小学校算数課題】

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られました。

### 【中学校】

国語科：県平均、全国平均を上回る正答率

数学科：県平均、全国平均を上回る正答率

英語科：県平均、全国平均を上回る正答率

### 【中学校国語課題】

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題が見られました。

### 【中学校数学課題】

四分位範囲の意味の理解や、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られました。

### 【中学校英語課題】

読んだことの要点を捉え、考えとその理由を書くことに課題が見られました。また、日常的话题について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題が見られました。

## ○ 本市における学力向上策

上記の結果から、本市の児童生徒は今回出題された問題を概ね理解していると言えます。本市では、これまで児童生徒の学力向上に関わって以下のような取組を進めてまいりました。その結果が成果として表れていると考えられます。

### ① 小学校下学年までの少人数学級編制事業

市費負担教員を採用し、32人程度学級を実施します。きめ細かな指導を図ることにより、義務教育9年間の基礎を築く小学校1.2.3年に学びの基礎となる生活や学習習慣の定着を図ります。（本年度7名採用）

### ② 中学校区別学力向上連携事業

小学校と中学校の教員がお互いに授業を参観し合ったり、研究会に参加し合ったりすることで、それぞれの授業の良さを学び合い、指導力の向上に生かします。合同の研究テーマを設定し、中学校区の課題や児童生徒の様子を共有し合い、児童生徒理解を深め、いわゆる中1ギャップの解消に努めます。

### ③ 調査研究事業

守山市教育研究所が主催する、指導力向上に向けた研修会の充実と指導力向上に向けた調査研究をすすめる、教職員の資質の向上を図ります。

#### ④ 授業改善・開発事業

一人一台のタブレット端末、大型提示装置、AIドリルなどのICT機器の利用により、子どもの学習意欲が高まる授業、子どもの思考が深まる授業を推進します。

#### ⑤ 学力向上事業

小学5年生で学力診断調査を実施し、早期から学習到達度に関する、全国との比較ができる資料をもとに個に応じた指導を行い、児童生徒の学力向上を図ります。また中学進学にむけて、小学校6年間の復習課題をAIドリルで出題し、小学校から中学校への滑らかな接続を図ります。そして、6年間の成果を検証し補充することで、子どもたちが自信を持って中学校へ進学できる基盤をつくります。

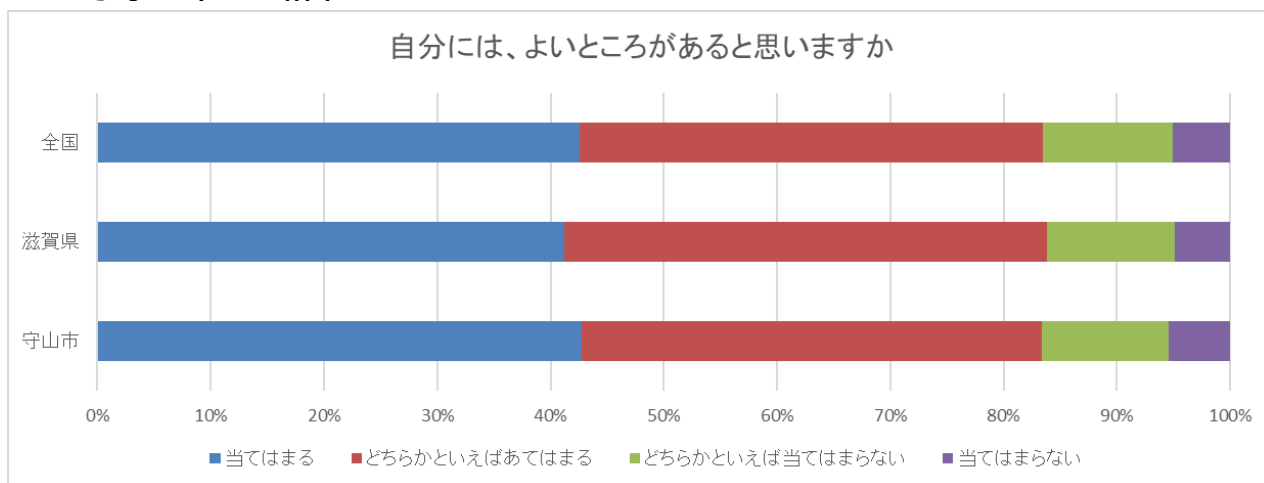
#### ⑥ ALT（英語指導助手）配置事業

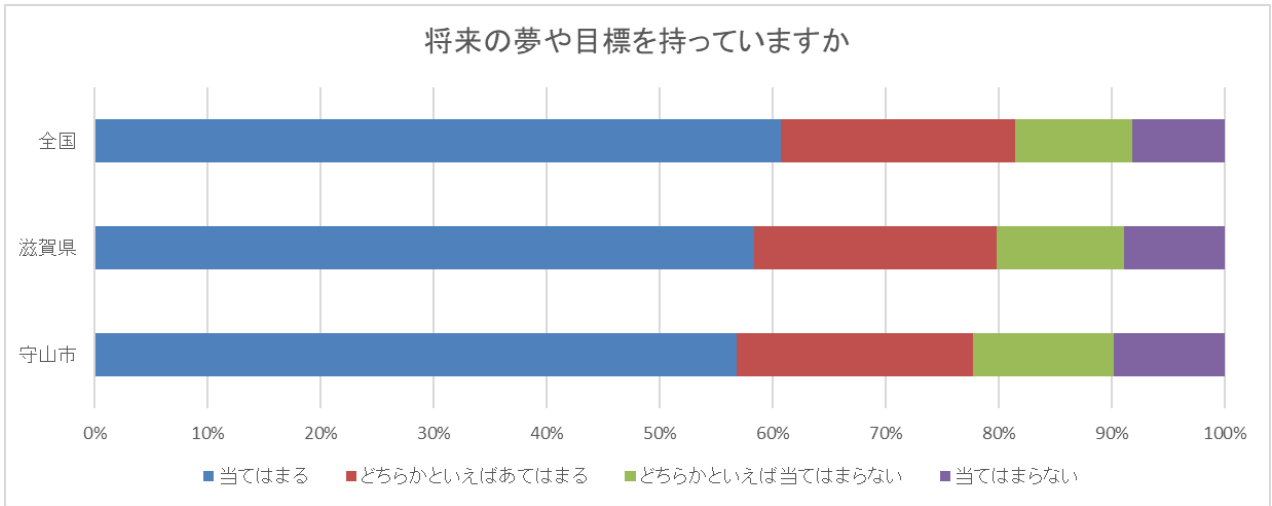
小学3・4年生では年間15時間、小学5・6年生では、年間35時間の授業にALTが入り、対話的な英語力の習得を図ります。

引き続きこれらの事業に取り組むことで、児童生徒が「できた」「もっとやってみよう」と感じる授業、児童生徒が生き生きと学ぶ姿が見られる授業をさらにすすめていけるよう、教育委員会としても各学校を支援していきます。

## (2) 学習状況調査

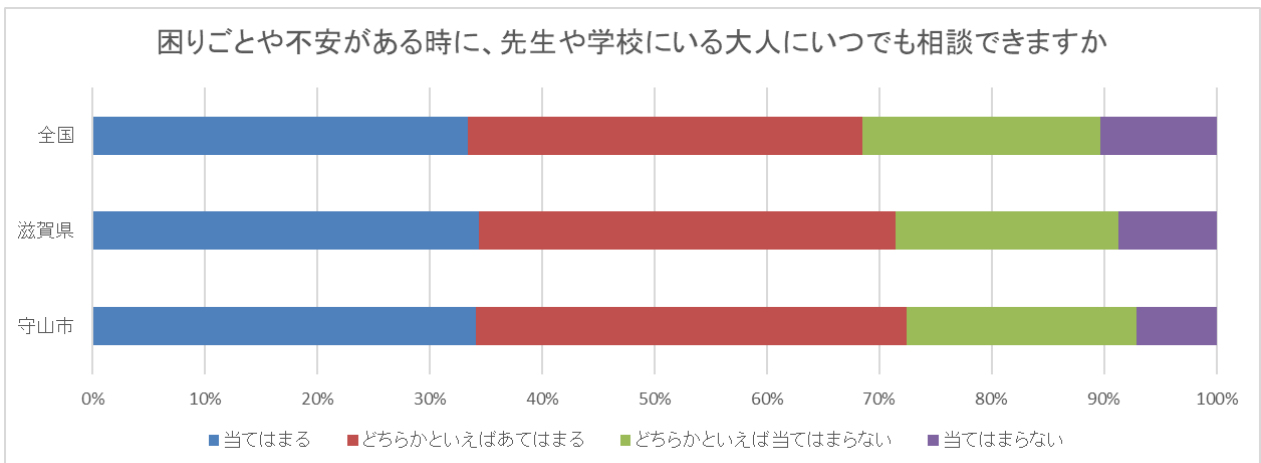
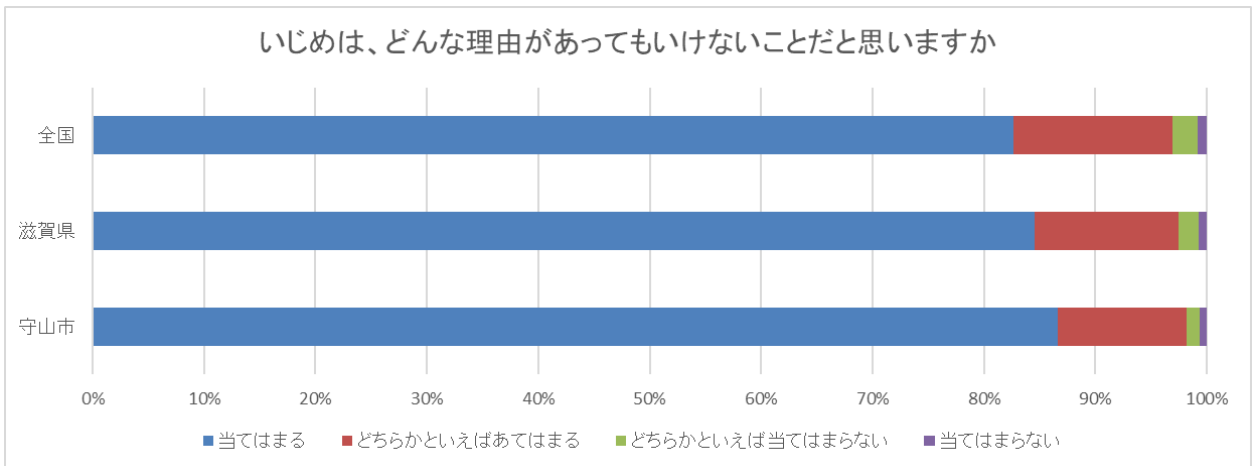
### ○ 小学6年生の結果



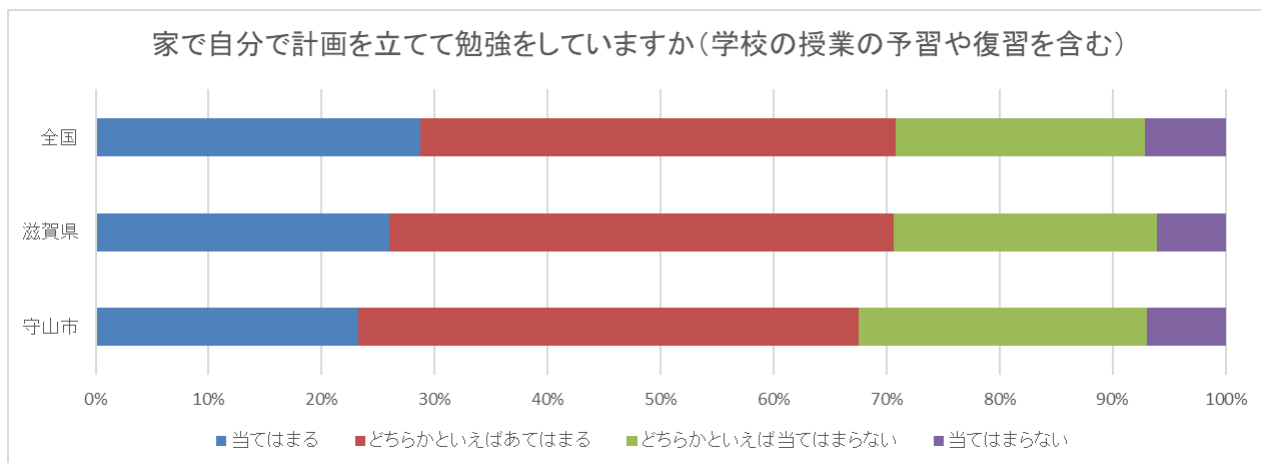


「自分には、良いところがあると思いますか」の質問については、全国並みの回答率となっています。幼少期からの子どもたちが、自分には良いところがあると感じられるようにするためには、自身の良さを実感できる、落ち着いた、安心のできる環境が大切です。何ごとにおいても取組の姿勢やできたことを積極的に褒めていくことで、子どもたちが安心してすごせる環境を作り出すことが大切です。

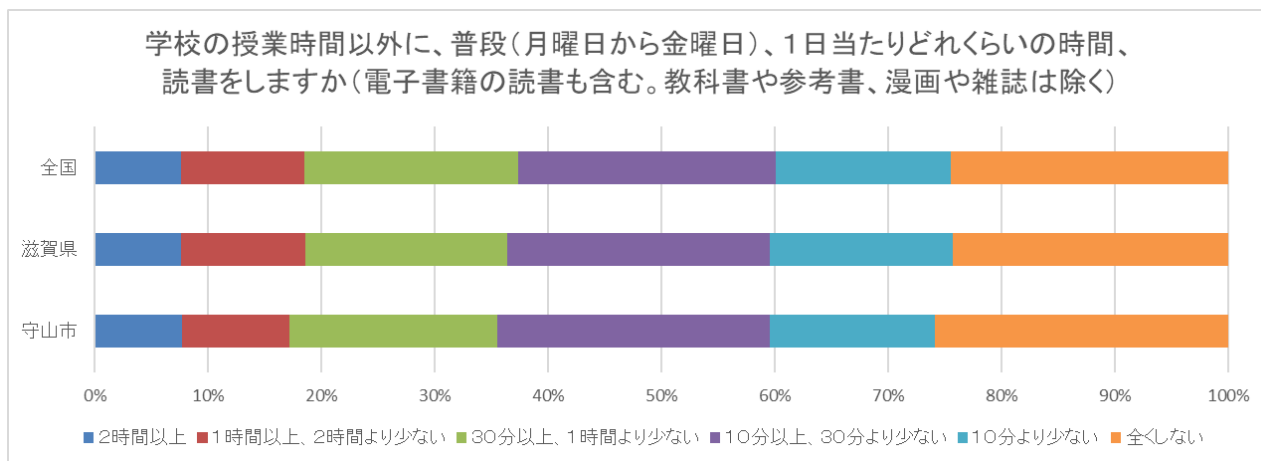
また、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、肯定的な回答が、全国よりやや低い割合となっています。子どもたちが、将来の夢や目標を意識できるように、企業家の方々に講話をしていただくなどこれからも取組を進めていきたいと考えます。



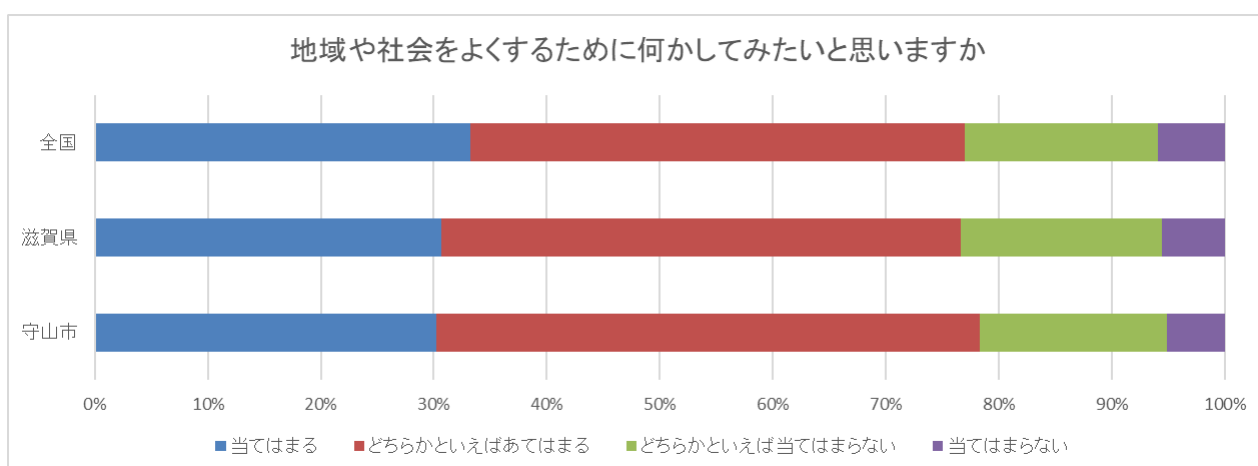
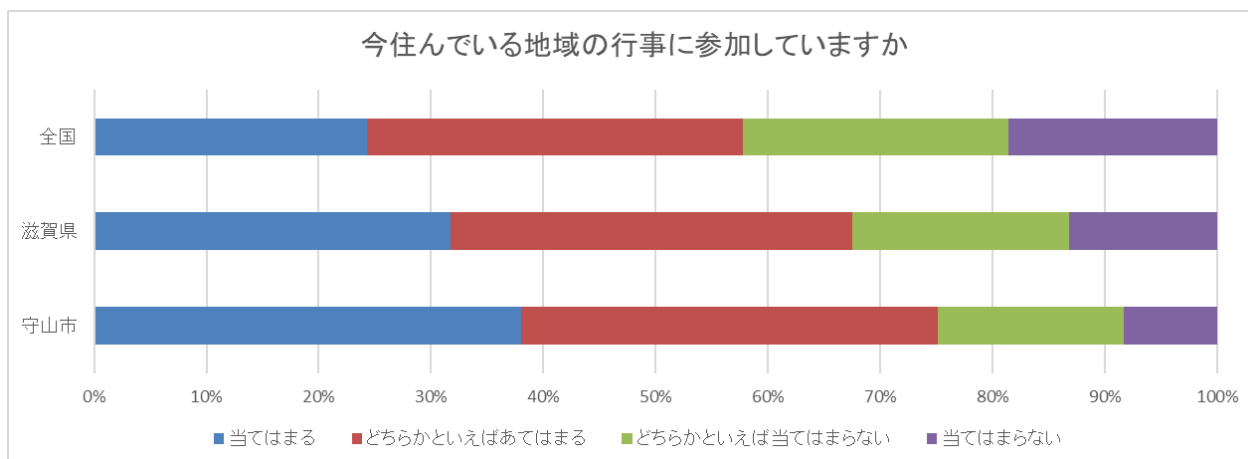
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問については、肯定的な評価が、全国平均を上回る割合でした。いじめに対しては、毅然とした態度で臨み、継続的な指導が必要です。その上で、教育相談的な側面も充実を図ることで、悩みや不安がいつでも話せる体制作りが大切です。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問の肯定的な回答が、全国平均を上回りました。さらに子どもたちが、安心して過ごせる学校づくりに努めてまいります。



将来の夢や目標に向かって、主体的に学ぶ子どもたちの育成のためには、見通しを立てて学習に取り組めることが大切です。子どもたちが計画的に学習できるよう家庭でも声かけをお願いいたします。



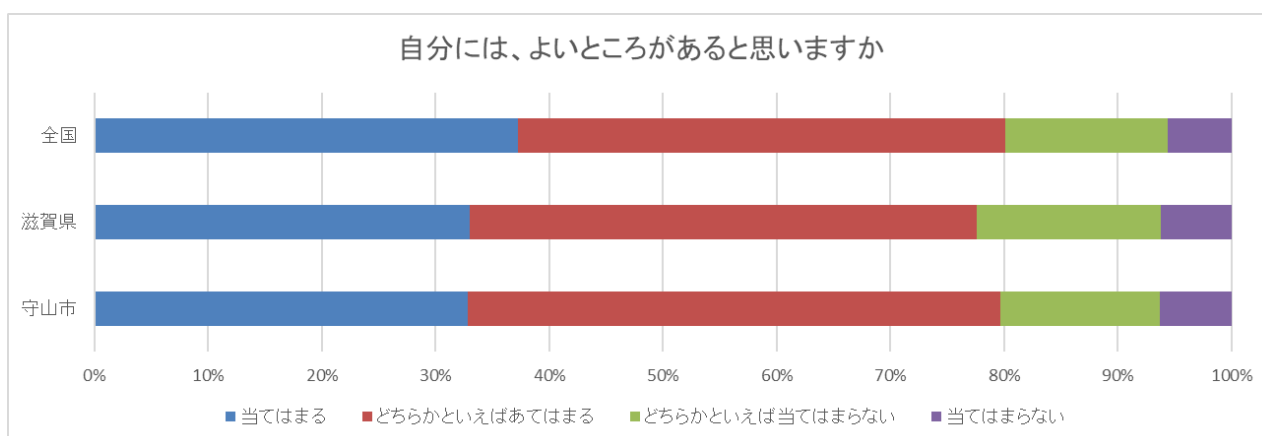
普段の読書時間が、全国平均よりもやや少なくなっています。学校ではこれまで子どもたちの読書習慣が身につくよう、学校ごとに様々な取組を進めてきました。さらに、読書量が増えていくよう、引き続き取り組みを進めてまいります。ご家庭でも、子どもたちが本に触れる機会が増えるよう、親子で読書をしたり市立図書館へ出かけたりするなどしていただければと思います。

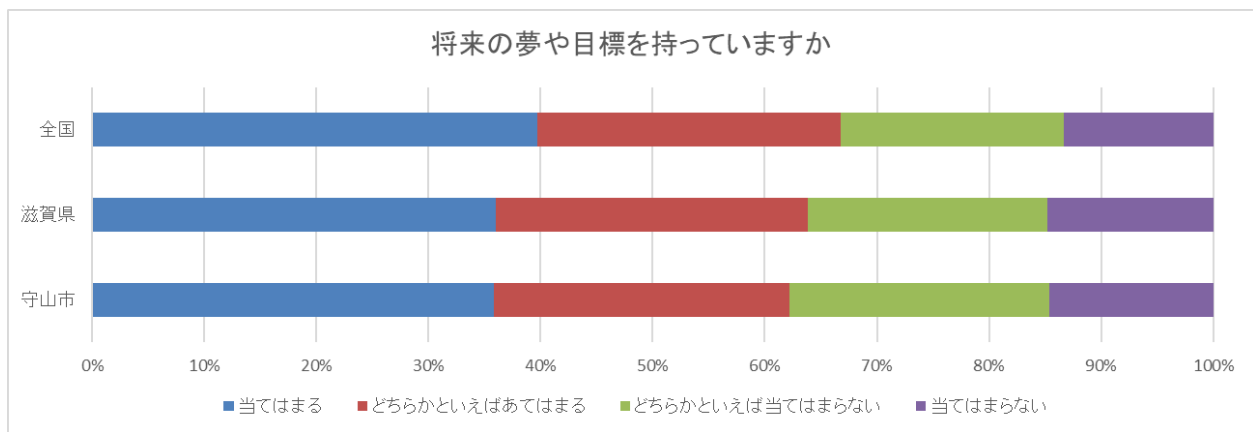


地域の行事に参加している児童の割合は、全国平均を大きく上回っています。地域の方々が子どもたちを大切にしてくださっていることが結果として表れており、守山市として大変にありがたいことです。

「地域をよくするために何をすべきか考える」子どもたちを育成するために、いろいろな教科で地域教材を題材にして学習を進めています。さらに意識が高まるよう引き続き取り組んでまいります。

### ○ 中学3年生の結果

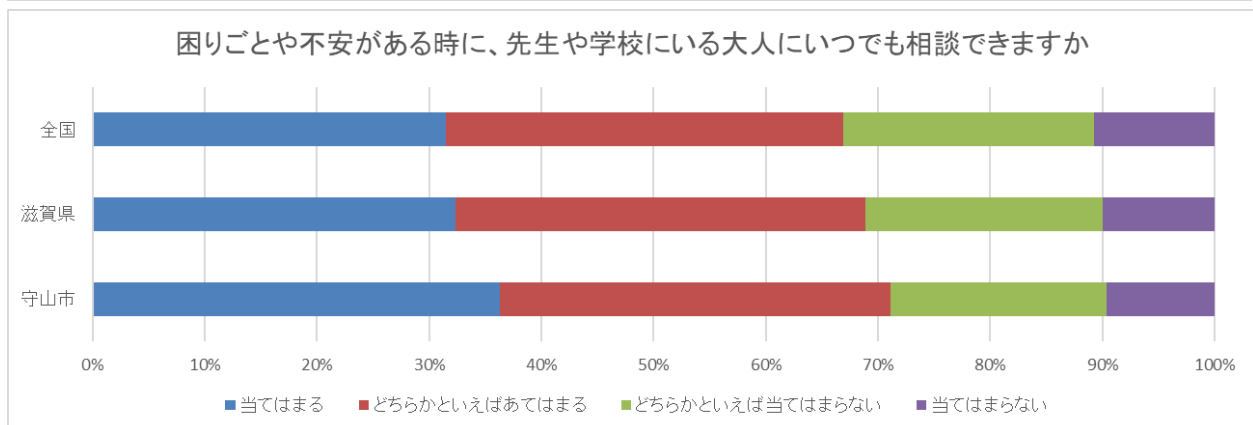
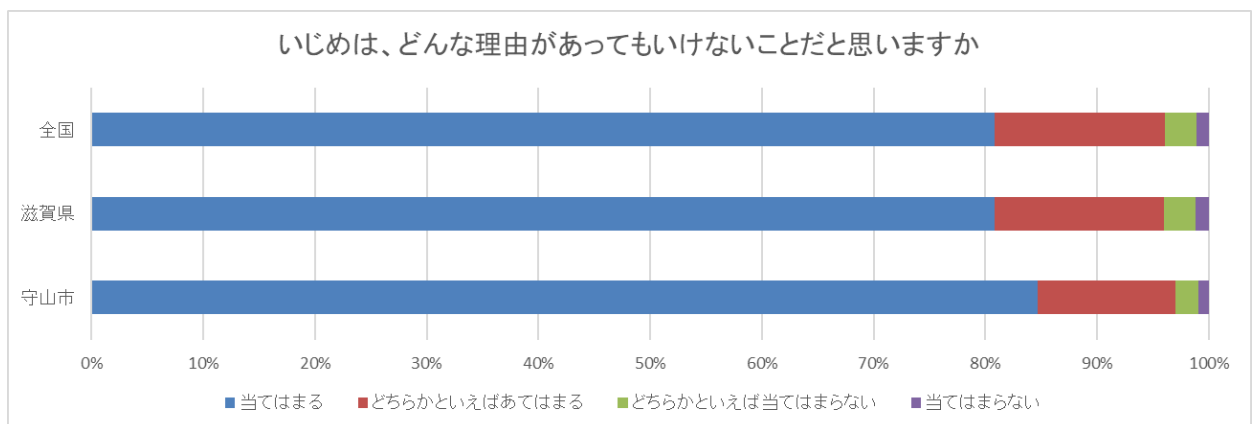




全国平均よりもやや低い割合となっています。

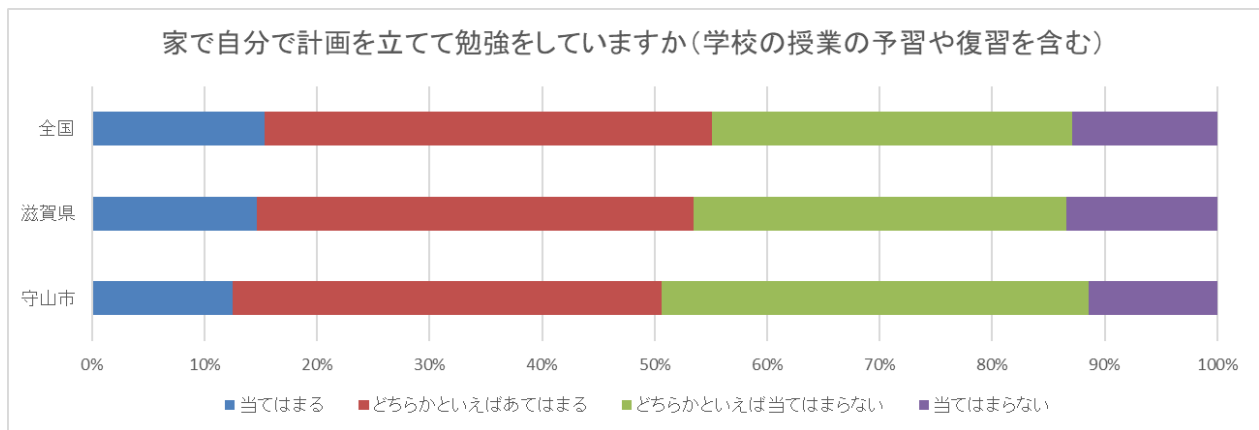
中学校では、子どもの誕生を通して命の大切さや自身の大切さを学ぶ学習を2年生で実施しています。また、守山市の企業家等の方々に職業講話を行っていただくなど身近に社会で活躍している方々に触れる機会を設けています。

思春期を迎える生徒たちが、自分の良さを実感し、将来への希望を持てるよう、こうした取組を引き続き進めていくとともに、生徒に寄り添った声かけ・関わりを大切にしていきます。

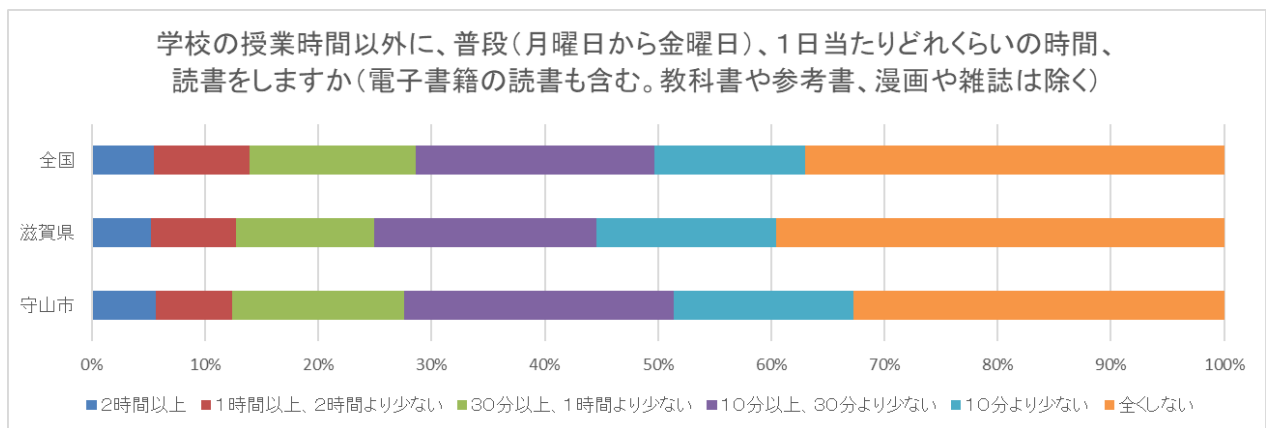


「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問については、小学校と同様に、肯定的な評価が、全国平均を上回る割合でした。小学校と中学校で、大きな差はありませんでした。今後も子どもの健康度調査（QTA30）やスクールカウンセラーなどをうまく活用し、小さなサインを見逃さずに、安心して過ごせる学校づくりに努めてまい

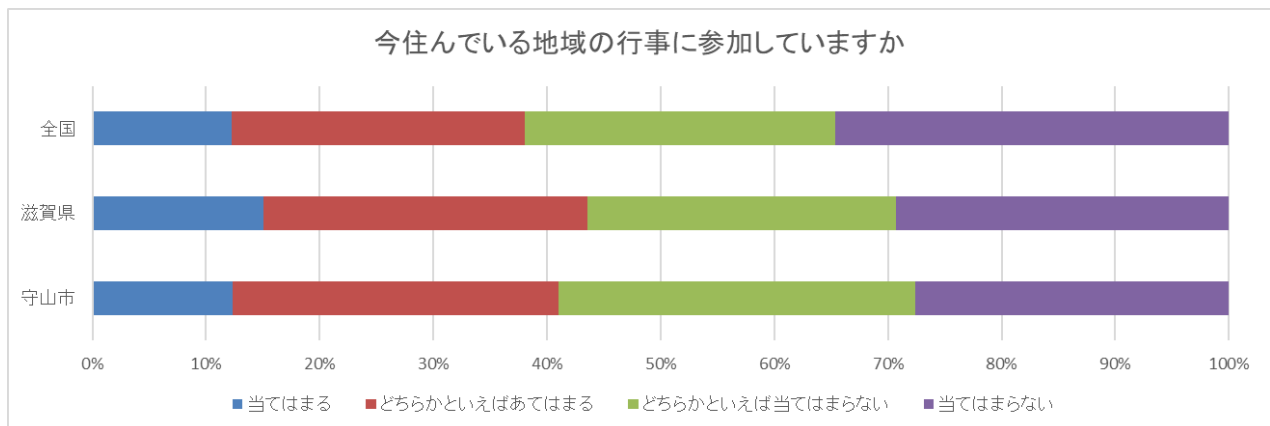
ります。



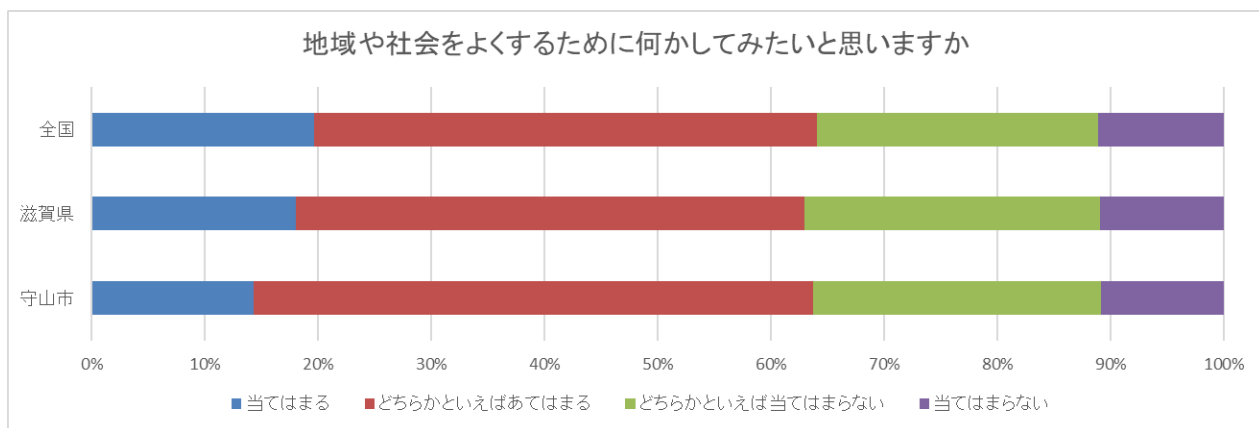
肯定的な回答が全国よりやや低い割合となっています。将来の夢や目標に向かって、主体的に学ぶ子どもたちの育成のためには、見通しを立てて学習に取り組めることが大切です。また、自分自身の課題に気づき、その克服のために手立てを考えられる生徒の育成が求められています。AIドリルなども活用して、効果的・効率的に自分の伸びが実感できるよう、働きかけていきたいと思えます。



普段の読書時間が、全国平均よりもやや多くなっています。中学校の図書室には学校司書が、週2日学校へ出向き、学校の図書室が活用しやすくなるよう充実を図っています。生徒の読書習慣が身につくよう引き続き工夫した取組を進めていきます。







地域の行事に参加する生徒の割合は、地域の方々のおかげで全国より高い割合となっています。しかし、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」生徒の「当てはまる」と回答した割合は、全国よりやや低くなっています。総合的な学習の時間や地域へのフィールドワークなど、学校教育活動をとおして地域の一員として主体的に課題を意識できるよう引き続き取組を進めていきます。

**これからも、すべての子どもたちが大切にされ、安心して学校生活を送れるよう、教育委員会としても支援を続けていきます。**